

地域連携 News

Japanese Red Cross Otsu Hospital

2022
7
vol.12

第二外科部副部長 着任のご挨拶



— はじめに

4月1日より外科に勤務させていただいています、濱洲晋哉(はますしんや)と申します。日本最大の湖である琵琶湖と比良・比叡の山々に囲まれた、歴史あるこの大津の地で働けることをうれしく思っています。

— 専門分野について

1. 経歴

私の専門は消化管外科ですので、食道・胃・小腸・大腸の良性疾患から悪性疾患、緊急手術まで幅広く対応してきましたが、中でも胸腔鏡下食道手術とダヴィンチ直腸手術に特に力を入れています。平成10年に大学を卒業し、1年間の大学病院での研修では外科以外に麻酔科もローテーションして貴重な経験となりました。平成11年から岐阜県飛騨の高山赤十字病院に勤務しました。地域の拠点病院でしたので、そこで外科手術を中心に救急医療、集中治療についての基礎を学びました。平成18年から康生会武田病院(京都駅前)ではベテラン医

第二外科部副部長 濱洲 晋哉

プロフィール

卒年:平成10年

資格等

- ・日本外科学会外科専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医
- ・日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科直腸部門)
- ・ロボット支援下直腸手術プロクター指導医
- ・ロボット技術認定医
- ・日本救急医学会救急科専門医
- ・麻酔科標榜医
- ・日本消化器外科学会
消化器がん外科治療認定医

師たちから開腹手術を徹底的に学び、平成20年から京都桂病院に勤務しました。桂病院は早くから腹腔鏡手術を取り入れており、自分よりも若手と一緒に研鑽しているうちに、内視鏡外科技術認定医(大腸)を取ることができました。消化管全般の治療に関わりながら、私のところには食道癌、直腸癌、大腸穿孔、急性胆嚢炎といった症例が集まることが多く、次第にその治療戦略を探求していくようになりました。

2. 治療戦略: 食道癌

まず食道癌ですが、開胸手術の時代に比べて胸腔鏡下手術によって患者さんへの負担は軽減され、呼吸器関連の合併症もかなり減っています。気管支や大動脈といった周囲臓器への浸潤が疑われる場合でも、術前化学放射線療法が著効して手術可能となる場合があり、積極的に切除することで長期予後が期待できます。手術だけではなく、化学療法、放射線療法、免疫療法、栄養療法を組み合わせた集学的治療により、患者さんの希望や状態に最も適した治療を追求していきたいと考えています。

3. 治療戦略: 直腸癌

直腸癌では、癌の根治性と機能温存が重要なテーマとなります。まだ議論のあるところですが、特に肛門に近い低位の直腸進行癌では、術前化学放射線療法により局所の癌を制御しながら腫瘍を完全切除し、転移が疑われる場合に選択的に側方リンパ節郭清を行うことで予後の向上を図るようになりました。腫瘍が著明に縮小して安全に切除できる場合、これまで難しかった肛門温存が可能となる症例も経験します。



ダヴィンチ直腸手術では、開腹手術や腹腔鏡下手術では骨盤内操作がかなり困難であった歯状線に近い癌であっても到達可能であり、より安全な手術をすることができます。癌の根治性を損なうことなく、多くの患者さんの希望である肛門温存手術に今後も取り組んでいこうと思います。

4. 腹部救急手術について

腹部救急手術は外科医になって以来ずっと取り組んできました。大腸穿孔や急性胆嚢炎が重症化して敗血症を来した場合などは、外科治療だけではなく集中管理の知識も必要となってきます。麻酔や救急治療に関わってきた経験を総動員して治療に当たることになるので、重症患者を救命できた場合などには非常に達成感を感じることができます。一人でも多くの重症患者を救えるように努力していきたいと考えています。

— おわりに

幼いころは父に連れられて琵琶湖で泳いだり、稚鮎を獲ったりして遊び、大学時代は瀬田川でボートを漕いでいました。ここ数年は健康のために始めた山登りで比良の自然に魅せられて、蓬莱山や武奈ヶ岳には何度も登っております。私自身にとっても非常に馴染み深いこの大津で、少しでも皆さんのお役に立ち、地域医療に貢献していきたいと思っています。



日本赤十字社 大津赤十字病院 地域医療連携課

〒520-8511 滋賀県大津市長等一丁目1番35号

TEL.077-522-8535(直通) FAX.077-522-4385(直通)

予約受付 月曜日から金曜日(平日) 午前8時30分から午後8時00分まで
土曜日 午前9時00分から午後1時00分まで

QRコードからホームページが
ご覧いただけます

<https://www.otsu.jrc.or.jp/>

